

Dynamic Data Masking

メリット

- 重要な情報の保護によるコンプライアンスとセキュリティの確保
- 業務アプリケーションと運用データベースに影響を与えることなく、優れたコスト効率でデータ侵害から保護
- セキュリティソリューションを迅速にカスタマイズしてROIを最大化
- 機密情報を保護しながらビッグデータ、クラウド、アウトソーシングのイニシアチブをサポート

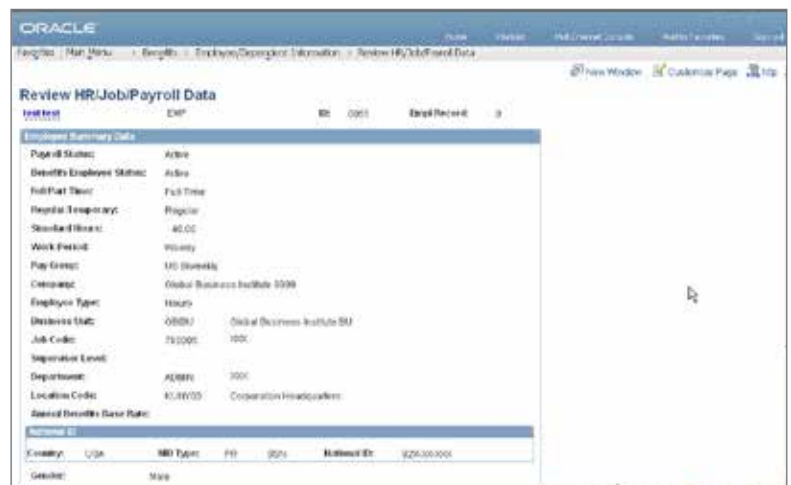
データの保護によるコンプライアンスとセキュリティの確保

Informatica® Dynamic Data Masking (DDM) は、データを匿名化し、カスタマーサービスや請求、受注管理、顧客エンゲージメントなどの運用環境に対する不正アクセスを抑制します。DDMではユーザーの役割、場所、権限に基づいて機密情報をマスキングまたはブロックします。また、不正アクセスが試行された場合にはアラートを発し、コンプライアンスや監査にログを提供することができます。

DDMは、アプリケーションとデータベースの間に透過的に実装されている、特許取得済のデータベースネットワーク インラインプロキシを基盤としています。このプロキシはデータベースリスナーとして動作し、アプリケーション画面、事前定義済みのレポート、開発ツールからのすべての受信アプリケーションリクエストを処理します。これらのリクエストは、分析または処理後にデータベースへ送られ、迅速に実行されます。

IT部門は、ユーザーの認証レベルに基づいて高度で柔軟なデータマスキングルールを適用できます。インテリジェントなルールエンジンにより、条件を指定して、どのSQL文またはSQLの結果を変更すべきかを特定できます。マッチした場合、Informatica Dynamic Data Maskingはマスク、暗号化、非表示、書き直し、ブロック、リダイレクトのうちの1つまたは複数のアクションを適用して、権限のないユーザーが機密情報にアクセスすることをリアルタイムに防ぎます。導入企業は、総合的なアプリケーションアクセラレータとあらかじめ組み込まれたプライバシールールを活用して、数々の賞に輝くこのテクノロジーを短期間で導入し（場合によっては数日レベル）、アプリケーションの安全を確保できます。

Informatica Dynamic Data Maskingは、社内外の不正なユーザーが氏名、アカウント番号、社会保障番号などの機密情報にアクセスした場合に、それらをリアルタイムに匿名化します。



Employee Summary Data		
Payroll Status:	Active	
Benefits Employee Status:	Active	
Full/Part Time:	Full Time	
Regular Temporary:	Regular	
Standard Hours:	40.00	
Work Period:	Weekly	
Pay Group:	US Benefits	
Company:	Oracle Business Institute 5598	
Employee Type:	Hourly	
Business Unit:	Oracle Business Institute BU	
Job Code:	752001	1001
Supervisor Level:		
Department:	ALMKT	3001
Location Code:	SLREV05	Cooperation Headquarters
Standard Benefits Base Rate:		
Personal ID		
Country:	USA	SSN Type: FI SSN Number: 92063003001
Gender:	Male	

主な機能

ポリシー主導で役割に基づいたリアルタイムのデータ保護

Informatica Dynamic Data Maskingは、不正アクセスの動的なマスク、暗号化、非表示、ブロック、監査、アラートを実行するセキュリティアクションをリアルタイムに適用します。画面、テーブル、列、行、セルのアクセスレベルに基づいて、アクセスを制限します。

拡張可能でインストールと設定が容易

一度インストールすれば、後は拡張していくことで数百のデータベースをサポートすることが可能です。また、データマスキングポリシーも1回定義すれば、後は何度でも適用することでツール、アプリケーション、環境に対する一貫したアクセス制御を迅速に実現できます。データマスキングアルゴリズムは、あらゆる形式のすべての機密データに適用できます。

優れた多用途性、アプリケーションおよびデータベースのパフォーマンスに影響を及ぼさない

Informatica Dynamic Data Maskingは仮想データ、既存のデータ、ビッグデータ、クラウドコンピューティング環境をサポートしながら、パフォーマンスに影響を及ぼすことなくカスタムアプリケーション、パッケージアプリケーション、データウェアハウス、運用データストアへの不正アクセスを防止します。

認証ソフトウェアとの統合

Informatica Dynamic Data Maskingは、選択的に適用されるセキュリティルールに基づいて、データを表示する必要のあるユーザーだけに、業務上重要な情報を提供します。また、既存のID管理ソフトウェアを利用して導入時間を短縮し、アプリケーションやツールのセキュリティフットプリントを強化します。

リアルタイムのデータマスキングとブロッキング

複数の行とテーブル間でデータ値を同期化することで、複雑なアプリケーションでも機能の操作環境やマスキングしたデータの整合性を維持できます。オリジナルのデータが変更されることはありません。

主なメリット

優れたコスト効率で重要なデータを保護

Informatica Dynamic Data Maskingは、アプリケーションやパフォーマンスに影響を及ぼすことなく、社内外のデータ侵害の脅威から優れたコスト効率でデータを保護します。このソフトウェアはインストールも簡単で、アクセスの可能性がある機密情報をリアルタイムに匿名化します。

セキュリティソリューションを迅速にカスタマイズしてROIを最大化

Informatica Dynamic Data Maskingでは、データ保護を簡単にカスタマイズできます。あらゆるアプリケーション、バックアップ、クローン、データウェアハウス、開発ツール、DBA（データベース管理者）ツールへ簡単かつ迅速に実装できるので、短期間で最大限のROIを実現できます。

アウトソーシング、ビッグデータ、クラウドイニシアチブのサポート

運用環境／非運用環境にセキュアなアクセスを提供することで、IT部門はオフショアリソース、アウトソーシングリソース、クラウドベースのリソースなどを利用して生産性を大幅に高め、ビジネスのニーズに迅速に対応することができます。

